

21世紀への飛躍と

活力に満ちた

繁栄の基礎づくりの年

個性豊かな郷土づくり

当初予算などを審議し、六十二年度の市政の方向を決める三月定例市議会が三月十一日に開会、二十五日までの十四日間の日程で開かれ、日程を一日延長し、二十六日に終了しました。小笠原市長は新年度当初予算をはじめ、各議案の提案理由の説明に先立ち、行政運営について次のように施政方針を述べました。

施政方針(要旨)

現下の日本経済は、急激な円高、貿易摩擦の激化等の影響を強く受け、製造業を中心に経営が悪化し、雇用がさがせられつつあります。これらの諸条件を克服しながら、活力に満ちた個性豊かな郷土づくりを目指し、不断の努力を続けていかなければならないと考えています。本市にとつては、本四架橋、高速道路時代の幕開けの年であり、市政施行三十周年という大きな区切りがさしかろうとしている二十一世紀に向けての飛躍と繁栄のための基礎づくりの年です。

行政改革

行政全般にわたる厳しい見直しを行い、二十一世紀に即応し得る行政機構の確立に努めています。六十二年四月から行政機構改革と職員の給料表の改正、六十四年

財政問題

乏しい財源の中から主要政策を実施するために最大の努力をしましたが、一部実現できませんでした。開発公社支払い目標一億円も当初予算に計上できませんでした。今後の努力により達成したいと考えています。六十一年度については最近の決算見込みによって補正し、約九千三百万円の開発公社支払いを計上することができました。

同和対策

現在、野中、前浜、西部の三地区で小集落事業に取り組んでいます。六十二年度予算には小集落地区改良事業を中心に計上しました。

事業の実施状況は計画の約五〇％です。今国会に提出されている新法案は最終の特別法になると言われており、法期限内に残事業の完成を図り、差別のない社会づくりを目指して取り組んでいきたいと考えています。

教育

学校教育関係では施設の整備を重点的に、また、基礎学力の向上のために教職員の研修を実施します。社会教育関係では図書館の充実を図り、六十二年度から移動図書館を実施する予定です。

高速自動車道

交通新時代を迎えるにあたり、本市内の道路網も着々と整備され、交通体系の確立が図られており、本市は基幹交通の最も重要な地域となってきました。この高速道路の活用は地域の発展に貢献する基

産業経済

本市の基幹産業は農業であるので、足腰の強い営農体系の確立を図り、国や県の施策を積極的に導入していく考えです。また、今後もインターチェンジ周辺を工業用地や流通基地等に向けて開発し、

公害のない優良企業の誘致により、市民の雇用の場の確保、本市経済の活性化を図るよう取り組んでいきたいと考えています。

環境整備

産業、経済活動の発展に伴う公害を未然に防止し、環境を破壊することのないよう一層努力をしていきたいと考えています。し尿処理については、黒滝処理場の改善によって当面万全を期していく考えです。改修後のし尿処理場の操業開始は六十二年一月の予定です。

保健行政

老人保健法の主旨に基づき、各種検診事業、健康づくり事業などに積極的に取り組んでいます。また、六十二年度から肺がん検診を開始するなど、保健予防事業を更に推進していきます。国民健康保険事業については、六十一年度の決算見込みは極端に厳しい実情になっています。六十二年度は国保税の確実な賦課徴収、医療費の適正化対策、積極的な保健活動への取り組みなどの経営努力を一層強化し、力に深めていくべきであると考えています。



一般質問

三月定例市議会の一一般質問は、十六、十七、十八日の三日間にわたって行われ、高島、山崎、岡林、井上、井口、今井、山岡、竹内、徳永、吉村、堀川の各議員が、市長の政治姿勢や市の活性化、教育などの問題について執行部の考えをたどりました。執行部の主な答弁は次のとおりです。

■売上課与税については、国の姿勢が判然としないまま当初予算に導入すべきでないということだが、市の財政が困窮しているため、財源として導入した。今後の推移いかんで弾力的に対処する。

■都市計画は、市が努力しても市民の協力や地域の熱意、積極的な意欲がないと難しい。地元民の協力もお願いして、できないものはできない、できるものについては強力に推進する計画を立てなければならぬ時期に来ていると考えている。

■竹格となるのは駅前線だが、完成には十五年から二十年はかかると思う。後免駅への阿佐線乗り入れの予定もあるので、駅前広場の開発等を後免駅とも協議していきたい。また、小規模の区画整理事業については、パイパスの方からできるだけ小さい規模でやっていくと考えている。その他の地域の区画整理については、国の補助金が入る街路事業を取り入れて、地元と相談しやすい所からやっていきたい。近隣公園については、計画を変更し、近隣公園として予

定されていた土曜市の会場を児童公園に、現在切り取りが進んでいる吾間山を近隣公園としたいと考えている。運動公園については、土地の問題で明確な方針が立っていないため、今後の課題だ。

■大型店舗進出の問題は、商業活動調整協議会の意見を待っている。商業者と同時に消費者の問題であることを考えて対処したい。

■市の活性化のために、後免町を中心に活性化が言われたのは喜ばしいことだ。活性化のためには市の行政投資も必要だということだが、国、県、市だけでなく、関係者も出資する覚悟があるか。

■小集落地区改良事業については、新しい法律が成立することを前提に残事業の消化計画を綿密に立てる。新法は五か年の時限立法で、現在残事業のある地域にのみ適用される。財政的には現行法どおりの補助が行われる予定だ。

■下田川の改修については、川が低湿地帯を流れており、多くの問題があったため、早くから改修が言われていた。計画水量は百五〇、現在の川も含めて四十戸の用地を買収し、両側に三〇の管理道をつけることになっている。農地が失われるということだ。農地が失われるということだ。農地が失われるということだ。

■下田川の改修については、川が低湿地帯を流れており、多くの問題があったため、早くから改修が言われていた。計画水量は百五〇、現在の川も含めて四十戸の用地を買収し、両側に三〇の管理道をつけることになっている。農地が失われるということだ。農地が失われるということだ。

■海岸地域のごみについては、意識の高まりにより改善されてきた。今後は園芸廃材の処理場を確保する必要があると考えており、農協、農家とも話し合う。一斉清掃を行うなど、繰り返し美化に取り組みたい。

■幼児教育の充実のために教師、保育士、父母間の交流を図ってはどうかということだが、幼児期のしつけは重要なことで家庭教育を重視し、明年度から母親セミナーを開いて就学前の子供を持つ家庭を

指導していく。また、相互間の交流は、学校連絡協議会の活動の中で考えていきたい。

■県住居補原団地入居者の児童の保育については、園舎保育所を増設して対応する。園地からは乳児保育の希望もあるが、市では乳児保育を行っていないため、現段階では困難だ。

■献血は、市の使用量六千三百十五本(一本一〇〇cc)に対して献血率は三八割で、少なくとも自給自足はすべきであると考えている。地区や若年層に対する取り組みが必要ということだが、現在高校生

■エイズ問題については、県と連絡を取りながら対策を立てる。市としては根拠のない流言や飛語を防ぐため、今後健康事業や広報等を通じて市民に対して正しい知識の普及に努める。

また、「エイズ遊び」が児童の間ではやっていると聞いているが、これは一種の鬼ごっこだ。幸いなことに市内校での報告はないが、いじめや人権問題につながるので、十分注意しながら指導する。